





- ・10月：全体で演劇のリハーサルを主に行う。また、劇中で使用する劇伴の録音も行った。
- ・11/2：おしまつり会場の夢づくり会館で前日準備を行い、主にステージの様子やピンマイク、音響の確認を行った。
- ・11/3：おしまつり当日、演劇を上演した。

### <イベント当日>

- ・チラシ配布：集客のために制作したチラシを会場で配布した。
- ・演劇：ピンマイクの音がうまく拾われない等のトラブルがありつつも、最後まで演じることができた。



- ・その後の展開として、おしまつりに参加していた地域の事業者（NPO 法人きらり ワークセンターかがやき）よりオファーがあり、2026年1月24日（土）に実施されるマールシェで、創作演劇を追加公演することが決まった。

## 5 感想

- ・全く何もない状態から演劇の企画を立て、人を集めたり地域の方々の協力を仰いだりしながら作品を完成させる過程は、普段の生活の中ではなかなかできないであろう体験が多くありとても新鮮で楽しかった。

準備段階から本番まで多くのトラブルに見舞われたが、それら一つ一つのトラブルを全員で乗り越え、無事本番を終えることが出来たので良かった。

また、参加者全員が自分自身ができることを見つけ、個々の特色を活かして演劇を完成させたという点でふじのくに国際高校の特色を活かした企画になったと思う。（青島）

- ・自分では経験したことのないことを行うことはとても大変だったが、自分で工夫して活動を行えたので良かったと感じた。昨年行ったドリーム・プロジェクトの活動と比べて、確実に臨機応変に対応したり、計画をしっかり立てて本番を迎えたりという成長が見られたのでとても良かった。また、今年は昨年度と比べて、後輩も入り、余計にリーダーシップやまとめる力が求められる中で、中間年次は、中間年次なりに昨年の失敗を活かして話し合いを効率的に進められたと感じた。本番前の制作ではしっかりと念入りに確認をすることで、本番でのトラブルはあったものの、形としては、とてもよい作品ができたのではないかと感じ、本番の舞台はかけがえのない最高の瞬間になって良かったなと感じた。（工藤）
- ・演劇を一から作るのは初めての試みだったため苦戦したこともあったが、友人や後輩と協力したり話し合ったりして案を実際に形にしていくことができ、とても充実した取組だったと思う。昨年度より多くの人に協力を依頼したこともあり、話し合いや打ち合わせ、演劇の練習が難航した際も、昨年度より円滑で柔軟な対応ができた。本番でも、自分達の練習の成果を発揮できたと感じた。（高原）